

## 駒ヶ根市文化財

名称	吉瀬の不動明王像
種別	美術工芸品(彫刻)
指定	市・有形文化財(平成 29・7・25)
所在地	中沢 888
所有者	吉瀬自治組合
説明	<p>『中澤村誌』大正 11 年(1922)によると、元禄の検地公認で、「中沢吉瀬に長生院と称す地藏堂があり不動尊を祀り、その除地面積 1 畝歩」とある。</p> <p>現在不動明王を祀ってある寺屋敷のお堂は、昭和 24 年(1949)に地元有志の発起で再建されたものであるが、それ以前(大正年代)にあった古い堂も、やはり地藏堂と称していたと聞くので、現在の寺屋敷が、旧長生院跡と一応推定される。なお、この寺屋敷の上方 100m 位の所に堂平と呼ばれる所があり、上の沢を寺沢という。長生院と関連のものであろうが、かなり大規模な寺があったという伝承である。また伝説として、昔吉瀬に天台宗荒神山宝積寺という寺があつて、お不動様が駒に乗って、ここから赤穂の光前寺へ飛び移ったという話も伝わっている。</p> <p>この不動明王像は、総長 23.0cm、玉眼をむき出し両足をふんばった可愛らしい立像である。前記、昭和 24 年堂再建の折に、飯島町へ疎開しておられた彫刻家小林南龍氏によって、破損していた右手・足・眼・光背などの修理を施している。室町時代の寄木造といわれている。極彩色の緑青の色が腋下に残っているので、青不動であったのかも知れない。</p> <p>生き生きとした表情、衣紋の彫りの深さなど、小さいながら見事な仏像である。</p>



吉瀬の不動明王像